

2 取組み内容－本田技研と連携した自動車部品組立事業

しんわろネッサンス（前身の職業センター）では、1974年、かつて本田技研工業株式会社（以下「本田技研」という。）の社員であった進和学園の理事の尽力と同社の本田宗一郎氏などの協力の下、自動車部品組立をスタートさせた。現在では、就労継続支援A型事業（以下「A型」という。）の利用者は、自動車部品の受入れや部品の投入準備・検査などの管理部門の業務を主にを行い、就労継続支援B型事業（以下「B型」という。）及び就労移行支援事業（以下「就労移行」という。）の利用者は、ライン形式での自動車部品組立作業を行っている。

特徴的なのが製造ラインの組み方であり、取得している力量に応じて「一人一工程」を受け持ち、検査員としてA型の利用者を主に配置している。それぞれがチームワークを発揮して、一つの製品が生産される。このことは、A型の利用者が責任感を持って管理業務を行うことにより、B型の利用者が身近なA型の利用者を目標としたりするなど、お互いに刺激を受けて意欲を高める効果を生んでいる。

また、自動車産業の高い品質水準確保の要求に応じるため、施設内で障害の特性に応じたオリジナルの治工具（組み立て作業や検査、数量確認などを行うために用いる道具）を製造している。自動車部品の仕様は車のモデルチェンジに合わせて変わることから、ほぼ毎年新しい部品に合わせた作業方法が決まる。そのたびに、約40年の経験及びノウハウを元に、これに応じた治工具をゼロから開発することにより、高い品質水準を維持している。

品質向上への取組みをさらに徹底させるため、2007（平成19）年には、利用者及び職員全員で品質マネジメントシステムISO9001^{*4}を取得した。これは、知的障害者部門では日本で初めてのことであった。



チームワークを発揮したライン形式での自動車部品組立作業

進和学園と本田技研の取引の仲介をする営業窓口会社として、株式会社研進（以下「研進」という。）が職業センター創設時から設けられ、大きな役割を果たしている。研進は、本田技研とその部品メーカー約60社と包括的な売買契約を結んでおり、本田技研から発注された仕事に関して、部品メーカーから部品を購入し、進和学園に組立・加工を委託し、製品を本田技研に買い取ってもらうという業務を行っている。また、売買契約に基づく資金繰りや本田技研との加工賃交渉、各種コスト負担などについても研進で行っており、在庫・仕掛・輸送中のリスク負担を行っている。